



Culture Book

 Bunshun Tech ZERO

私は頼まれて物を云うことに飽いた。
自分で、考えていることを、
読者や編集者に気兼ねなしに、
自由な心持で云って見たい。

菊池寛

これは1923年、雑誌『文藝春秋』創刊にあたって、
創業者・菊池寛が記した言葉です。友人の芥川龍之介、川端康成らが寄稿した
創刊号3000部はわずか3日で完売したといいます。
それから100年後の2021年に誕生したのが、
「文藝春秋」とともに歩むテック企業「Bunshun Tech ZERO」、略して「BTZ」です。

紙からデジタルへ。

100年前に比べるとコンテンツを伝える手段は格段に増え、
ものすごいスピードで変化しています。
紙の本や雑誌だけでは、読者に広がりにくい時代となりました。
でも、菊池寛が言ったような
「自分で、考えていること」を「自由な心持」で語りたいという思いは変わりません。
そんな脈々と受け継がれたスピリットを携え、未来を見据えた新しい技術で、コ
ンテンツをもっとたくさんの人に、より深く伝えたい——
そんな思いからBTZは生まれました。

文藝春秋100年の歴史を受け継ぎ、
テックの力でゼロから歴史を紡ぐ企業、それがBTZです。

1

やりたいこと、
思ったことを言いあえる環境をつくる



2

課題解決のために
みんなで意見を出しあい、
みんなで乗り越える



3

コンテンツ、技術、人……
すべてにおいて尊敬の気持ちを忘れない





4

新しいものと古いもの、
どちらの価値も大切にする

5

伝統ある出版文化を尊重し、
日本語を大切にする



飛べない飛行機を 飛べる飛行機へ

純文学でも大衆文学でも、
人にたくさん読まれるのが、かんじんである。
読まれない文芸などは、純文学だろうが何だろうが、
結局飛べない飛行機と同じものである。

菊池寛





Bunshun Tech ZERO

文藝春秋100年の歴史を受け継ぎ、
テックの力でメディアと本の新たな価値を創造する